

## 令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立戸祭小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和4年4月19日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 113人

② 算数 113人

③ 理科 113人

#### 5 留意事項

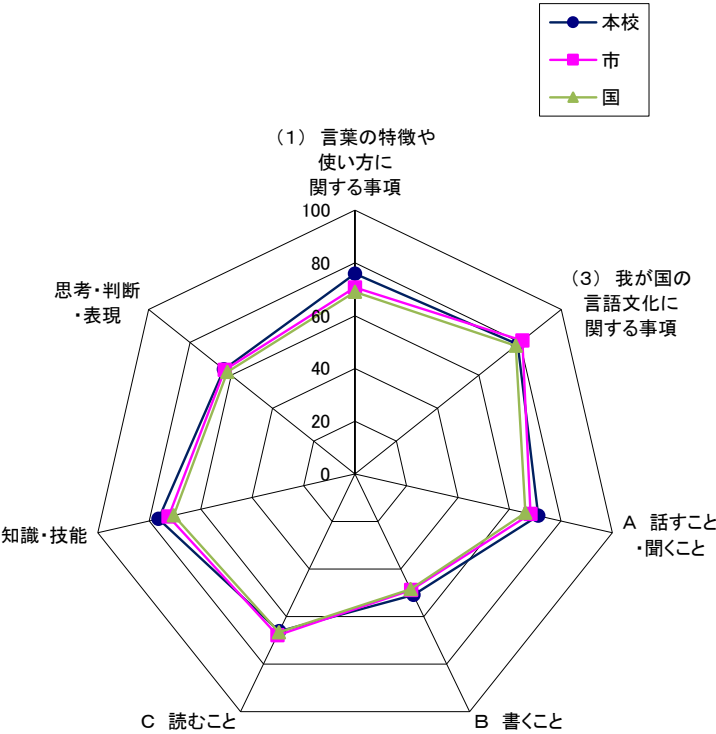
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立戸祭小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	75.9	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	78.8	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	71.2	68.2	66.2
	B 書くこと	50.9	48.9	48.5
	C 読むこと	66.2	67.9	66.6
観点	知識・技能	76.4	72.5	70.5
	思考・判断・表現	63.6	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

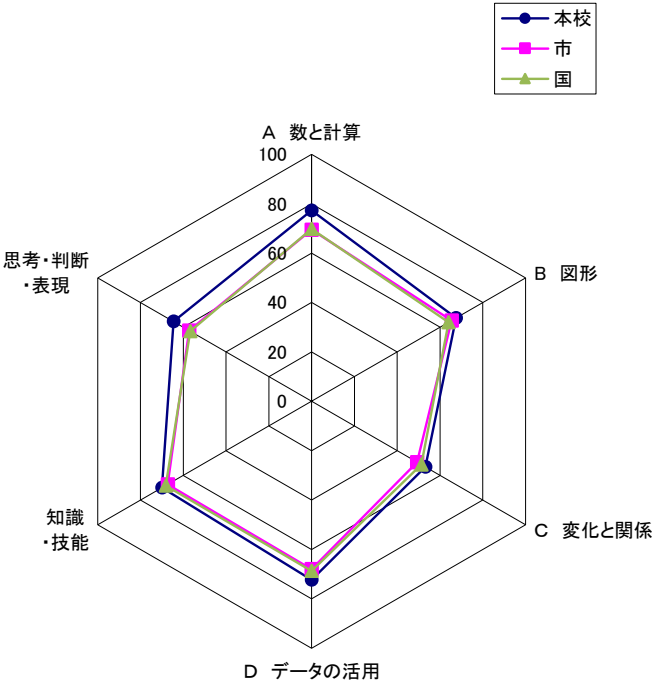
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	○本校の平均正答率は市平均に比べ、5.2ポイント高い。 ○文章にある漢字の書き取りでは、「録画」「反省」「親しむ」と解答する全ての問題で、県や国の平均を上回っていた。3問中2問は正答率が7割以上で良好な結果となった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の問題はよくできていたが、この結果が継続できるよう、復習を定期的に行っていく。 ・日記や作文などの文章の中で正しく漢字が書けたり、日常生活においても既習漢字を進んで使用したりできるように、意識を高められるようにしていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	●本校の平均正答率は市の平均に比べ、2.4ポイント低い。	・書写の時間を中心に、日頃からの文字を書く学習において、正しい漢字やひらがな、カタカナ、記号等の書き方で書けるような機会を設け、評価していく。 ・書いた文章を他人が読むときに、文字が整っていると相手が読みやすく、内容が伝わりやすいことから、文字の大きさや配列を注意して書くことができるようにしていく。
A 話すこと・聞くこと	○本校の平均正答率は市平均に比べ、3.0ポイント高い。 ○【話し合いの様子の一部】における発言の理由として適切なものを選択する問題の正答率は、県や全国の正答率を6ポイント上回っており、9割以上の児童が正答している。	・今後さらなる力を付けるために、話し合いのモデルを提示し、互いの考えの共通点や相違点を確認しながら話し合いを進めていけるようにする。 ・他教科や教育活動とも関連を図り、児童の日常生活に生きて働くように話し合いの場を設定していく。
B 書くこと	●文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題の正答率は、県や全国と比べると、数値は上回っているものの、書くことに対して苦手意識をもっていることが分かる。 ●文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える問題では、全国の正答率を0.8ポイント下回っている。	・授業の中で、自分の考えを理由を明確にしながら書いたり、友達と文章を読み合ったりする活動の充実を図っていく。自分や友達の書いたものが、目的や意図に沿っているのか、互いに吟味し合う場を意図的に設けていく。 ・家庭学習で日記に取り組ませたり、物語文の感想を書かせたりするなど、文章を書くことの習慣化を図る。
C 読むこと	○本校の平均正答率は市平均に比べ、1.7ポイント高い。 ●表現の効果を考える問題の正答率は、県や全国の平均より下回っている。	・朝の読書の時間や図書室の利用を積極的に指導しながら、読書の習慣化を図り、様々な分類の本を読むように指導していく。 ・物語文で出てくる表現の意図を考えさせたり、どのような表現が効果的なのかを考えさせたりする。

宇都宮市立戸祭小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	77.3	69.5	69.8
	B 図形	67.5	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	53.1	49.3	51.3
	D データの活用	72.3	68.0	68.7
観点	知識・技能	70.0	67.3	68.2
	思考・判断・表現	64.6	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

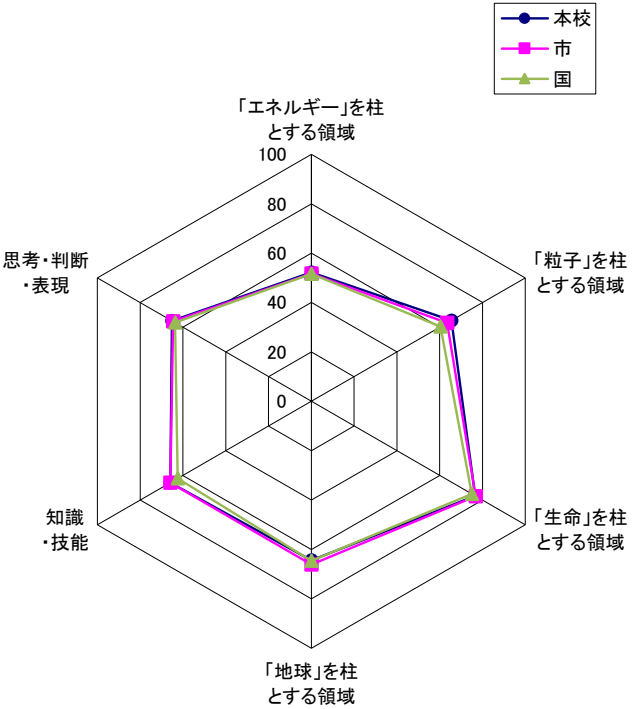
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○本校の平均正答率は市平均と比べ7.8ポイント高い。 ○どの設問も平均正答率は国や県の平均を上回っている。 ●「 $1400 \div 3$ で求められる理由を書く」と「加法と乗法の混合したポイント数の求め方と答えを書く」という記述式で解答する設問は、ほかの設問と比べ無回答が多かった。	・問題の場面を理解して立式できるよう、文章題を解く際には日ごろから図や数直線に表現させるようにする。 ・答えを出すだけでなく、どのような手順で答えを出したのか説明できるようにする。 ・記述式の解答に苦手意識を感じないように、日ごろから自分の考えを書く活動も取り入れていく。
B 図形	○本校の平均正答率は市平均と比べ2.1ポイント高い。 ●「示されたプログラムでかくことのできる図形を選ぶ」設問では、本校の平均正答率は県平均と比べ3.6ポイント下回った。 ●「長方形のプログラムをもとに向かい合う辺の長さを書く」「辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことのできるプログラムを選ぶ」という設問では、無回答の割合が全国や県の平均よりも高い。	・長さや角度を測るなどの具体的な操作を通して、辺の長さや角の大きさ、頂点の数など図形の構成要素をもとにそれぞれの図形の特徴が理解できるようにしていく。 ・5年生でプログラミングを使って多角形をかく活動では、図形の特徴とプログラムを関連させて自分でプログラムが作れるようにしていく。
C 変化と関係	○本校の平均正答率は市平均と比べ3.8ポイント高い。 ○「百分率で表された割合と基準量から比較量を求める」という設問では、本校の平均正答率は県の平均と比べ7.8ポイント高い。 ●「百分率で表された割合を分数で表す」という設問では、本校の平均正答率は県平均と比べ4.5ポイント、全国平均と比べ6.5ポイント低い。 ●「伴って変わる2つの数量が比例関係であることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する」という設問では、無回答の割合が全国や県の平均と比べ高い。	・比較量、基準量、割合を用いた基本の割合の求め方について問題演習を通して定着を図る。 ・百分率と小数、小数と分数といった表し方の変換の活動を取り入れ、割合には様々な表し方があることを理解させる。 ・記述式の問題への苦手意識を無くすため、日ごろから自分の考え方を書いたり、説明したりする活動を行う。
D データの活用	○本校の平均正答率は市平均と比べ4.3ポイント高い。 ○「分類整理されたデータをもとに、目的に応じてデータの特徴を捉え考察する」設問では、全国や県の平均正答率を大きく上回った。 ●「目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取る」という設問では、本校の平均正答率は県の平均と比べ0.5ポイント、全国の平均と比べ3.1ポイント低い。	・それぞれのグラフの特徴や活用する場面を考え、目的に合わせてグラフが選択できるようにする。 ・理科や社会などの学習とも繋げ、グラフから必要な数値を読み取り、それをもとに考察する力の更なる定着を図る。

宇都宮市立戸祭小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	52.2	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	65.5	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	76.6	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	64.4	66.1	64.6
観点	知識・技能	65.9	65.9	62.5
	思考・判断・表現	65.2	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○本校の平均正答率は、全国・市平均に比べやや高い。 ○「鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てる実験結果から問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ」問題の平均正答率は78.8%で、全国・市平均に比べて2ポイント以上高い。 ●「光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ」問題の平均正答率は27.4%で、県・市の平均に比べて2ポイント低い。	・課題に対して予想や仮説を立て、追究していく学習を繰り返して行えるようにする。 ・光の進み方及び光の反射の仕方をもう一度復習し、光が目的の場所にどのように到達するのか可視化するなどして、光の性質を理解できるようにする。
「粒子」を柱とする領域	○本校の平均正答率は、全国・市平均に比べ2ポイント以上高い。 ○「メスシリンダーという器具の名前を書く」問題の平均正答率は92.0%で、全国・市平均に比べて15ポイント以上高い。 ●「メスシリンダーで水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ」問題の平均正答率は64.6%で、全国・市の平均に比べて8ポイント低い。	・グループでの実験の結果を全体で共有し、その正当性について話し合わせるようにする。 ・実験器具を適切に使ったり、計量器具を使う時、数値等を正確に読み取れるようにする。
「生命」を柱とする領域	○本校の平均正答率は全国平均に比べ1.6ポイント高いが、市平均と同等程度である。 ○「資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるのかを選ぶ」問題の平均正答率は80.5%で、全国平均と比べて4.4ポイント高い。 ●「昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ」問題の平均正答率は、70.8%で全国平均を2.3ポイント下回り、市平均と比べると、5.3ポイント下回っている。	・基本的な知識を身に付けるため、多くの生物の例を観察し、多様性と共通性を理解できるようにする。 ・昆虫に分類される生物の、体のつくりの共通点を復習し、その部位の仕組みを振り返るようにする。
「地球」を柱とする領域	○本校の平均正答率は、全国・県平均と同等程度である。 ○「冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ」問題の平均正答率は、86.7%で、全国平均と比べて4.4ポイント高い。 ●「夜と気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ」問題の平均正答率は、57.5%で市平均と比べて10.4ポイント低い。	・いろいろな自然現象が起こる原因を追究するために、原因となるであろう条件を考え、それらがどのように関連しているのかを整理して表現できるようにする。 ・四季の変化について、気温の高低差が太陽の影響であることから、各季節の特徴をまとめるようにする。

宇都宮市立戸祭小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどのくらいの時間、勉強していますか」の質問に対して、1時間以上と回答した児童の割合は86.2%で、県や全国と比べて20ポイント以上高い。家庭学習の習慣が定着してきていると考える。今後も児童の家庭学習の意欲向上が図れるように指導を充実させていきたい。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に対して、当てはまると回答した児童の割合は62.1%で、県や全国を大きく上回っている。教師と児童の関係性が良好であると考えられる。今後も児童一人一人を大切にして指導にしていきたい。

●「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束をしたことを守っていますか」の質問に対して守っていると肯定的に回答した児童の割合は59%で、県や全国と比べて10ポイント低い。使い方について約束を守る大切さを学校でも指導していくとともに、家庭でも約束について見直し、児童が守っていける約束を改めて考えていけるよう働きかけていきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどのくらいの時間、読書をしますか」の質問に対して、全くしないと回答した児童が34.5%で、県や全国を大きく上回っている。読書時間の確保の他、興味関心を高めるための取組を充実させることで、読書習慣の構築に努めたい。

●「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」の質問に対する肯定的回答の割合は84.5%で、県や全国の平均を共に下回っている。学校生活の中で成功体験を積みませ、最後まで粘り強く取り組むことの大切さや、達成感を味わわせることで、やり遂げる意志の強さを高めていきたい。

宇都宮市立戸祭小学校（第6学年）  
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的な深い学びの学習に取り組む児童の育成	児童に本時の授業や学習全体の流れについて見通しをもたせる。それにより、やるべきことが理解しやすくなり、活動の方向性を具体的に考えることができる。よって自らの能力を生かして問いに挑戦しようという意欲がわくと考え。 また、友達と話をして考えを広げたり、他者と関わって問いを解決したりする場を設ける。その取組により、自分の学習に有効であると感じることで、一層双方向のやりとりが充実し学習への効果が上がると考えられる。	「5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」の質問に対して、当てはまらないと、どちらかという当てはまらないと回答した児童の割合は17.2%であった。引き続き、児童の興味関心と学習意欲向上につながる授業改善に努める必要がある。 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることはできていますか。」の質問に対して、当てはまると、どちらかという当てはまると回答した割合が80.2%であった。授業の中の発表や話し合いの場面の中で、互いに聞き合い考えを深めようとする態度が定着化している。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
質問紙の結果から、学校の授業時間以外の家庭学習は1時間以上取り組める割合が高い一方で、読書時間は10分より少ない、または全くしない児童が48%を超える状況にある。	読書時間の確保と習慣化の構築	朝の読書や読み聞かせによる本に触れる場を引き続き設けることや学校司書や委員会による本に親しむ機会の充実を図っていく。